

新見公立大学紀要 第33巻
pp. 145–149, 2012

報告

看護学生の英語論文講読力を高めるために —看護学部3年生対象「英語論文講読入門」—

山内 圭¹⁾*・宇野 文夫¹⁾・斎藤 健司²⁾

外国語教育

(2012年11月28日受理)

本報告は2010年4月に開学した新見公立大学看護学部の3年次前期に開講した「英語論文講読入門」(2012年度初開講)についての報告記事である。64名の学生を初年度開講科目の「英語Ⅱ」の成績により3クラスに分け、3名の教員がそれぞれのクラスを担当した。
(キーワード)英語論文講読力、看護学生

はじめに

2010年4月、新見公立大学看護学部が開学した。これは、1980年に開学した新見女子短期大学(後に新見公立短期大学)看護学科が、その30年にわたる実績を踏まえて、4年制大学となったものである。

新見公立大学看護学部(以下「本学」とする)の人材育成に関わる方針として、「教育目的」が以下のように定められた。

豊かな教養と高い倫理性を養い、多面的な人間理解と専門的な基礎的知識・技術を身につけ、科学的思考に基づく判断力や創造力のある看護専門職として、地域及び国際社会に有為な人材を育成する。(下線は著者)

「国際社会に有為な人材を育成する」ために本学では1年次から4年次にかけていつでも履修可能な「国際交流活動」に加え、外国語科目として、1年次前期に「英語Ⅰ」、同後期に「英語Ⅱ」、2年次前期に「英会話Ⅰ」、同後期に「英会話Ⅱ」、そして3年次前期に「英語論文講読入門」を開講している。

本報告論文は、2012年度に本学第一期生が3年生になることにより初めて開講された「英語論文講読入門」について報告するものである。

授業科目の概要

本学設置申請時の授業科目の概要では、以下のように記述した。

この講義は、英語Ⅱにおいて身に付けた専門的な英文を読む力をさらに発展させることを目的とする。

少人数のゼミ形式で、英語で書かれた専門的論文を読み、英文読解力及び看護医療分野の専門語彙の習得はもちろん、論文の構成や論の進め方に触れ、最新の看護医療分野の動向を知ることにも目的とする。欧米先進国の看護や医療に関する論文に触れることで、国際的な視点で研究への関心を高め、卒業研究にもつなげる。

授業目的

シラバスにおける「授業目的」では以下の項目を挙げている。

- ・英語で書かれた専門的論文を読む
- ・看護医療分野の英語の専門語彙の習得をする
- ・論文の構成や論の進め方を知る
- ・最新の看護医療分野の動向を知る
- ・卒業研究に国際的な視点を加える

留意事項(クラス分け)

シラバスでは、「留意事項」としてクラス分けについて以下のように記した。

1年次の英語Ⅱの成績を基に、英語Ⅰおよび英会話Ⅰ・Ⅱの成績を参考にして、レベル別に3段階にクラス分けする。宇野が上級レベル、斎藤が中級レベル、山内が基礎レベルを担当する。

*連絡先：山内 圭 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

1) 新見公立大学看護学部 2) 新見公立短期大学幼児教育学科

一期生においては、英語Ⅱの成績が、A(優)が17名、B(良)が22名、そしてC(可)が25名であった。やや過不足はあったが、ほぼ1/3ずつとなっていたため、成績Aの者を上級レベル、成績Bの者を中級レベル、そして成績Cの者を基礎レベルと分けた。

なお、1年次後期の「英語Ⅱ」は、医療に関する英文を読み、ドキュメンタリー番組を視聴する内容で、成績は筆記試験により主に読解力を見るものであった。

また、担当者の振り分けであるが、科学系教員である宇野文夫(専門は病原微生物、感染症、科学リテラシー等)と斎藤健司(専門は科学教育等)を上級レベルと中級レベルに配し、英語的な指導が一番多くなると考えられる基礎レベルに山内 圭(専門は英語教育等)を配置した。

変更点

開設の申請時には、宇野文夫と山内圭に加え、別の教員が名を連ねていたが、当該教員の退職に伴い、新見公立短期大学幼児教育学科准教授の斎藤健司が担当教員として追加された。

講義展開(オリエンテーション)

本講義は、2012年4月5日(木)1時限に開講した。第1回目の前半では、全体のオリエンテーションを行った。全体のオリエンテーションでは、担当教員の紹介、シラバスの説明を本講義の主担当者である山内が行った。

担当教員の紹介では、担当教員それぞれが英語論文を執筆していること、したがって当然英語論文の講読も日頃から行っていることを紹介した。その後、担当教員各々より各自の海外体験、英語との接触体験に基づき、本講義のオリエンテーションにふさわしい話を学生たちにした。

英語教育専門の山内が本講義の参考図書の紹介も行った。いくつかの看護学生にふさわしい英和辞典が出版されているが、本の辞書では、最新の語彙は未収録のことも多い(辞書は、出版した瞬間から古くなるので)、最新の論文を扱う場合は、インターネット検索により訳語を探すほうがよいこともしばしばあることなどを伝えた。また、基本語彙は、これまで使っていた学習用英和辞典で対応できること、学習用としては本の辞書のほうが学習効果は一般的に高いが、電子辞書の利点もあるので電子辞書の使用も可能であること、看護師用の電子辞書も出ているので利用してもよいことなども伝えた。

その後、クラス分けが発表された。クラスごとの人数、担当者、講義場所は以下のようにした。

Aクラス(学生17名、担当:宇野文夫、場所:研修室

1・2)

Bクラス(学生22名、担当:斎藤健司、場所:看護学部3年生教室)

Cクラス(学生25名、担当:山内 圭、場所:交流ホール)

本講義の後半は、クラスごとのオリエンテーションで、学生たちは3つのクラスに分かれ、それぞれの担当教員によりオリエンテーションが行われた。

各クラスごとの授業展開

1. Aクラス(担当:宇野文夫)

i. 使用した教材及び選択した意図

1) Watson, JD and Crick, FHC: Molecular structure of nucleic acid. *Nature* 171, 737-738, 1953.

ワトソンとクリックの20世紀の大発見のひとつ、DNA二重らせんモデルを提唱した内容で、ノーベル賞受賞対象になった1ページ程度の短い論文である。高校の生物や大学の生化学などでは必ず習う内容であるが、世界的な発見がどんなふうに報告されたのかを読んでみるのも面白いと思う。発見の裏話、特に発見に不可欠なデータを提供したと伝えられる女性科学者、ロザリンド・フランクリンについて授業で紹介した。

2) Hatakka, K et al.: Effect of long term consumption of probiotic milk on infections in children attending day care centres: double blind, randomized trial. *BMJ* 322, 1-5, 2001.

プロバイオティクス、つまり身体に良い微生物を摂取すると、健康状態が改善するかどうかに関する論文である。フィンランドの保育所に通う幼児を対象に、乳酸菌の摂取が呼吸器感染症の罹患回数と重症度に影響があるかどうかを、ランダム化二重盲検法で調べた研究である。呼吸器感染症による欠席日数と重症度に、顕著ではないが、ある程度の効果があったという内容である。

3) Beekmann, SE et al.: Hospital bloodborne pathogens programs: program characteristics and blood and body fluid exposure rates. *Infect Control Hosp Epidemiol* 22, 73-82, 2001.

看護師が執筆した病院等における感染管理に関する論文である。アメリカのCDCが従来のUniversal Precautionを改定して、Standard Precaution(標準感染予防策)をガイドラインとして定めた。Standard Precautionが実行されるためには、どのような要因があるのかを、アイオワ州とバージニア州の病院を対象に実施した詳細な調査の結果である。

上記3つの指定論文を全員で読んだ後は、各班で英語論文を1編選び読ませた。内容は自由だが、看護領域を中心に医療関係論文が望ましいとの条件をつけた。学内図書館またはインターネットから選ばせた。

情報として、本学図書館では、看護系英文雑誌として、*American Journal of Nursing*, *Journal of Advanced Nursing*, *Nursing Research* を購読していること、インターネット上では、PubMed（米国国立医学図書館データベース）またはGoogle Scholar（Googleの学術情報検索サイト）などの検索が有用であることを示した。

各班で選んだ英語論文を読み、発表用の資料を次の要領で作るよう指示をした。

- ①用紙と形式：A4判1枚（縦置き横書き）表紙は付けない。文字数・行数は自由
- ②最初に班員の学籍番号と氏名列記
- ③次に選んだ文献を次の形式で表示。著者名（最初の著者のみ）：論文題目、雑誌名巻、最初のページ最後のページ、発行年
- ④論文の要約を日本語で書く。論文のAbstractを日本語に訳したものでもかまわない。
- ⑤論文の内容を説明するのに必要な説明や図表があれば記載（任意）。

各班ごとで準備した資料をもとに、授業で、各班は論文内容を25分間程度で説明するよう求めた。説明は、口頭およびホワイトボードを利用して行うこと、説明後、15分間程度の質疑を行うことの条件をつけた。プレゼンテーションは、代表者でも、複数でも、複数の者が交代で行ってもかまわないこととした。

1回の授業で2つの班がプレゼンテーションを行った。

2. Bクラス(担当：斎藤健司)

i. 論文についての説明

英語の論文と日本語の論文を資料として、論文の基本的なスタイルについて説明をした。論文構成の解説を中心に、論文を読むことが重要な理由、論文の検索方法、図書館での依頼方法、論文の読み方等を伝えた。また、卒業研究のテーマ選びから論文作成までの流れと各段階での要点について解説をした。

ii. 抄読会の活性化

論文を読んで参加者に内容を伝えて参加者と議論をすることの訓練をした。

Bクラスは、11名のグループ2つに分かれて抄読会を行った。1回の授業で、準備をしてきた2名のうち当日くじで選ばれた1名が論文を紹介し、10名の参加者と

もに議論をした。

論文紹介者には、次の力をつけることを目的とした。①論文をしっかりと読む力、②専門用語が出てくる英文を読む力、③相手に伝わりやすくプレゼンテーションをする力。

参加者には質問を1回以上することを義務付けた。授業では、質問をしたら机の上に立てた棒を倒すことにした。質問をしないと、時間が進むにつれて全員の目が自分の机上の棒に集まり、プレッシャーを感じる仕組みになっている。この目的は、自分の考えを他人に伝えようとする力の養成である。発言のレベルが低くても、話題に関係なくても積極的に発言をしようとする姿勢を養おうとした。

iii. 日本語論文の抄読会

抄読会は、先に日本語論文の紹介を6回実施し、次に英語論文の紹介を6回実施した。

「活発な議論が行われる抄読会」の姿を把握しやすくするために、はじめに日本語論文の抄読会を実施した。紹介をする論文は学生が自由に選ぶ。学生が選んだ論文の分野は、小児看護、母性看護、精神看護、救急看護、老年看護等であり、偏りはなかった。論文が日本語であるため、発表者は論文の背景まで深く読み込むことができ、参加者に研究全体を的確に伝えることができていた。そのため、参加者の質問内容は、単語の質問ではなく、内容の深い質問や発展した質問や研究限界の議論などであった。緩和ケアの論文がテーマの時は、議論が活発に行われて11人の看護観の違いが明らかになり、面白い回となった。

iv. 英語論文の抄読会

英語論文の抄読会は、日本語論文の抄読会と同じで、紹介をする論文は学生が自由に選ぶことができる。しかし、英語論文を自分で探して適切な論文を選び出す作業は入門編の授業では学生の負担が大きいと考え、教員（斎藤）があらかじめ選んでおいた論文もいくつか紹介して選びやすくした。

発表者、参加者ともに日本語論文の抄読会の時よりも議論の展開に苦戦していた。発表者が論文をあまり読み込めていない場合は、参加者の質問内容も浅くなっていた。特に発表者は、論文の選択に苦労していた。また、教員（斎藤）が選んだ論文を発表した学生も多かったが、論文内容が医学系のものが多かったため、内容がつかみにくかったようである。来年度の英語論文講読入門で紹介する英語論文は、看護系のもので、読みやすい内容のものに変更する考えである。

v. 論文を理解するための知識

論文を理解するためにはその背景の知識が必要なときもある。そのため、本授業では適宜、研究対象国の制度や風習、研究の流行、専門分野や国による表現方法の違いなどについて解説を行った。

vi. 扱った英語論文(抜粋)

- ・ Molecular structure of nucleic acid. *Nature*. 1953 Apr 25;171(4356):737-8.
- ・ Immediate versus delayed fluid resuscitation for hypotensive patients with penetrating torso injuries. *N Engl J Med*. 1994;331(17):1105-9.
- ・ Home use of automated external defibrillators for sudden cardiac arrest. *N Engl J Med*. 2008 Apr 24; 358(17): 1793-804.
- ・ Sex-based differences in drug activity. *Am Fam Physician*. 2009 Dec 1;80(11):1254-8.
- ・ Experience is not enough: repeated breaches in epidural anesthesia aseptic technique by novice operators despite improved skill. *Anesthesiology*. 2008 May;108(5):914-20.
- ・ Management of in-flight medical emergencies. *J Oral Maxillofac Surg*. 2010 Jun;68(6):1377-83.
- ・ Effectiveness of bystander-initiated cardiac-only resuscitation for patients with out-of-hospital cardiac arrest. *Circulation*. 2007 Dec 18;116(25):2900-7.
- ・ Coding of facial expressions of pain in the laboratory mouse. *Nat Methods*. 2010 Jun;7(6):447-9.

3. C クラス(担当：山内 圭)

毎授業で、下記のようにそれぞれ1編の論文の要旨部分を読んでいった。論文は、学生たちの興味を考慮して、学内図書館で定期購読している看護専門英文雑誌の *American Journal of Nursing* または、 *Nursing Research* から主に選んだ。最初は、看護の特定分野に偏らない論文を選び、途中、日本人研究者の書いた論文の英文要旨も使った。終盤には、特定分野の論文を選び、耳鼻科と母性に関するものを選んでみた。

毎回の授業では、まず、前回の授業で読んだ英文より看護・医療に関する単語や表現を問う小テストを行った。これは英語を書かせる試験ではなく、英語の意味を問う出題形式とした。答え合わせは試験後直ちに行った。その後、出席確認や資料配布等を行い、山内がその回の授業で取り扱う論文についての背景知識の確認等を行った。

毎回の論文には、あらかじめ2~3名の担当学生を決

め、担当学生に紹介・説明させた。その後、他の学生により質疑応答のセッションも設けようとしたが、これはうまく機能せず、もっぱら質問シートへの質問記入、次週その質問とそれについての回答を講義ノートに記し、山内が説明するという形式によってのみ質疑応答が行われた。

以下、Cクラスで扱った題材および簡単な内容説明を記す。

4/12 “‘How Should I Touch You?’ : A Qualitative Study of Attitudes on Intimate Touch in Nursing Care” *AJN (American Journal of Nursing)* (March 2011, Vol.111, No.3) *看護師の患者へのタッチングについて

4/19 “Nurses’ Work Schedule Characteristics, Nurse Staffing, and Patient Mortality” *Nursing Research* (January/February 2011, Vol 60, No 1) *看護師の勤務体制が患者の死亡率に影響を与えるのかどうか

4/26 “Nurse Staffing and Patient Safety in Hospitals: New Variable and Longitudinal Approaches” *Nursing Research*: January/February 2012 - Volume 61 - Issue 1 - pp 3-12 *看護師の勤務体制と患者の院内安全について

5/10 “Sharing a Traumatic Event: The Experience of the Listener and the Storyteller Within the Dyad” *Nursing Research*: November/December 2011 - Volume 60 - Issue 6 - pp 386-392 *看護師の患者への傾聴について

5/17 “Changing the Sheets: A New System to Reduce Strain During Patient Repositioning” , *Nursing Research*: September/October 2011 - Volume 60 - Issue 5 - pp 302-308 *体位変換について

5/24 “Interactions of People with Disabilities and Nursing Staff During Hospitalization” , *AJN, American Journal of Nursing*: April 2012 - Volume 112 - Issue 4 - pp 30-37 *入院期間中の障害のある人との関わりについて

5/31 “Patient's Perspective: Hard Lessons from a Long Hospital Stay” , *AJN, American Journal of Nursing*: April 2012 - Volume 112 - Issue 4 - pp 39-42 *患者側からみた長期入院について

6/7 “The State of the Science in the Prevention and

Management of Osteoarthritis” , *AJN, American Journal of Nursing*; March 2012 - Volume 112 - Issue 3 - pp 25-33
* 骨関節炎の予防と管理

6/14 “New Nurses: Has the Recession Increased Their Commitment to Their Jobs?” *AJN, American Journal of Nursing*; March 2012 - Volume 112 - Issue 3 - pp 34-44
* 不況が新人看護師の勤務態度に影響を与えるかどうか

6/21 時間調整

6/28 (東洋医学) “Development and Evaluation of Fundamental Education about Kampo Medicine Adopting an Experimental Program in Clinical Pharmacy Using Team-based Format” , *YAKUGAKU ZASSHI* 128 (10) 1467-1473 (2008) The Pharmaceutical Society of Japan * 東洋医学教育について

7/5 (耳鼻科) “Validity of Self-Rated Hearing Compared With Audiometric Measurement Among Construction Workers” , *Nursing Research*; September/October 2011 - Volume 60 - Issue 5 - pp 326-332 * 聴覚自己判断の有効性について

7/19 (母性) “The Underutilization of Emergency Contraception” , *AJN, American Journal of Nursing*; April 2012 - Volume 112 - Issue 4 - pp 44-50 * 緊急避妊法があまり使用されていないことについて

終講後は、授業で扱ったテーマ(自分の担当したもの以外)を選んでそれについてレポートを書くことを求めた。参加型の授業にするため、机を丸く並べ授業を行った。また、毎回配る回答シートを利用し、適宜、授業内容に関連するクイズを行い、質問やコメントも回答シートに書かせた。

以上、2012(平成24)年度前期に初開講した「英語論文講読入門」の授業内容について報告した。本報告執筆段階では、学生による授業評価の結果が得られていないが、今年度の学生による授業評価及びレポートの内容等を検討して、さらに的確な授業展開ができるよう工夫してゆきたい。

Instruction to Reinforce Nursing Students' English Reading Ability

Kiyoshi YAMAUCHI, Fumio UNO, Kenji SAITO

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This paper reports on our instruction of English to nursing students in the newly-started subject “Basic Reading of Academic Papers in English.” We divided 64 students into three groups according to their English ability levels shown in “English II” in their freshman year, then three instructors taught each class.

Keywords: English Reading Ability, Nursing Students